

がん・心臓病・脳卒中

心原性脳塞栓症

脳卒中



脳卒中センター
医師
山岡 由美子

心原性脳塞栓症とは・・・

さまざまな原因によって心臓の中に血の塊（血栓）や異常構造物ができ、心臓が全身に血液を送り出す過程で、これらの塊が心臓から頸動脈や脳の動脈に流れてきて詰まると、その血管が血液を運んでいる領域に酸素や栄養が到達できなくなり、脳の一部が死滅します。これを心原性脳塞栓症といいます。心原性脳塞栓症は、脳梗塞の約 25% を占め、そのうちの約半分は、心臓弁膜症を伴わない心房細動（発作性心房細動を含む）という不整脈により、心臓内に血栓ができることが原因で起こります。そのほかにも心筋梗塞発症後や、人工弁置換術後またはペースメーカー挿入後に発症する感染性心内膜炎という心臓内膜の感染症、まれに心臓腫瘍なども原因となります。

心原性脳塞栓症の特徴と治療および予後

頸動脈や脳の比較的太い血管が急に詰まる心原性脳塞栓症は、脳の広い範囲の障害が一気に出現するため、意識を失って倒れる、片方の手足が全く動かなくなる、会話が続けられなくなる、視野の半分が見えなくなるなどの強い症状が、日中に突然出現します。しばしば重症で、高度の後遺症をき

たしやすいタイプの脳梗塞です。

他の脳梗塞と同様、発症後 3 時間以内であれば、tPA（組織プラスミノゲン活性化因子）の静脈注射を行います。ヘパリンという薬を使うこともあり、その後、再発を予防する目的で、ワーファリンという薬に切り替えます。血栓が溶けながら血管の末梢側に移動していくと症状はどんどん改善しますが、血栓が太い血管に詰まったままであったり、脳梗塞の中に出血が起これると、重篤な後遺症が残って、介護が必要な状態となります。

ワーファリンについて

ワーファリンは、心臓内に血栓ができることを防ぐ内服薬で、心原性脳塞栓症の発症予防に用います。効き方には個人差があり、さまざまな薬や食物の影響を受け、納豆や青汁、クロレウなどの食品は効果を著しく弱めるため、摂取できません。ワーファリンの効果が不十分だと脳梗塞発症の危険が増し、効きすぎると消化管出血や鼻出血を起こすため、定期的に採血をして、かかりつけ医にチェックしてもらう必要があります。また、転んで頭蓋内に出血を起こすと、まれに生命の危険に瀕することもあるため、転倒しやすい患者さんにも使いにくいなどのデメリットがあります。ワーファリン使用の決定や使用中の諸注意は、患者さんごとに異なりますので、主治医に十分確認してください。ワーファリンを使用中の患者さんは、転倒・転落などの重大な怪我をしないよう、十分ご注意ください。

